

| | |
|---------|---|
| 氏名 | 土肥千紘 |
| 授与した学位 | 博士 |
| 専攻分野の名称 | 医学 |
| 学位授与番号 | 博甲第5467号 |
| 学位授与の日付 | 平成29年3月24日 |
| 学位授与の要件 | 医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当) |
| 学位論文題目 | Potential of alpha-fetoprotein as a prognostic marker after curative radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma (根治的肝細胞癌ラジオ波焼灼療法後の予後予測マーカーとしてのαフェトプロテインの有用性) |
| 論文審査委員 | 教授 金澤 右 教授 藤原俊義 教授 郷原英夫 |

学位論文内容の要旨

肝細胞癌は発症時にすでに背景肝が高癌化状態にあるとされており、原発巣を完全に制御しても年率20%で再発するといわれている。近年、その発癌性の指標としてAFPの重要性が注目されている。本研究の目的は、ラジオ波焼灼治療(RFA)による根治治療後の再発危険因子とAFPとの関連を明らかにすることである。

当科で治療した初発肝細胞癌のうち、根治的なRFAを施行した357症例を対象とし、AFPを含む臨床パラメータについて、再発との関係を解析した。単変量解析および多変量解析を行なうと、腫瘍数が多発であること、AFP高値およびDCP高値が再発の危険因子として抽出されたが、この関係は、AFPのカットオフ値を5ng/mlと低くしても同様の結果であった。また、これらの因子を加味した補正AFP値で検討すると、治療後のAFP値と再発リスクの相対危険比は正の相関関係であった。そして、治療後にAFP値が正常化した症例は、治療前のAFP値によらず再発率が低い結果となること、治療後のAFP推移の最低値が長期無再発生存例では全例低値であったことより、治療後のAFP値が十分に低下することが、治療後の長期無再発の必要条件であることが示された。

以上より、初発の肝細胞癌に対するRFAによる根治療法後の再発予測には、AFP値は重要であり、治療後のAFP値の推移を測定することで非癌部の発癌性を予測し得ると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、根治的なラジオ波焼灼治療(RFA)を施行した肝細胞癌 357 例を対象としてアルファフェトプロテイン (AFP) を含む臨床パラメータについて、再発との関係を解析した。多変量解析より、腫瘍数が多発であること、AFP 高値などが再発の危険因子として抽出されたが、この関係は AFP のカットオフ値を 5ng/ml と低くしても同様の結果であることがあきらかとなった。また、治療後の AFP 値と再発リスクの相対危険度は正の相関関係であり、治療後に AFP が正常化した症例は、治療前の AFP 値によらずに再発率が低いこと、治療後の AFP 推移の最低値が長期無再発例では全例低値であったことより、治療後の AFP 値が十分に低下することが、治療後の長期無再発の必要条件であることが示された。本研究は、初発肝細胞癌に対する RFA の根治治療後の再発予測における AFP 値とその推移の重要性を示しており、臨床的に意義の高い研究といえる。

よって、本研究者は博士(医学)の学位をえる資格があると認める。